

平成 26 年 4 月 13 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 笹田 卓



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので結果を報告します。

記

1、期間

平成 25 年 10 月 29 日 (火) ~ 10 月 31 日 (木)

2、視察内容

- | | |
|----------------|------------------|
| ○海ぶどう養殖について | 塩谷漁港 (国頭郡恩納村) |
| ○地域観光と渚の交番について | 北谷町観光協会 (中頭郡北谷町) |
| ○医療体制の充実について | 県立中部病院 (うるま市) |
| ○戦跡・慰霊施設について | 平和記念公園、糸数壕等 |

3、現地視察

- | | |
|--------------|--------------|
| ○米軍機騒音状況について | 嘉手納・普天間基地周辺等 |
| ○戦跡・慰霊施設について | 平和記念公園、糸数壕等 |

4、視察者

笹田 卓、江角 敏和 議員、島根県議会議員、大田市議会議員

5、視察経費 53,317 円

(詳細は別紙)

6、調査研究活動の目的・概要

(詳細は別紙)



調査研究の目的・概要

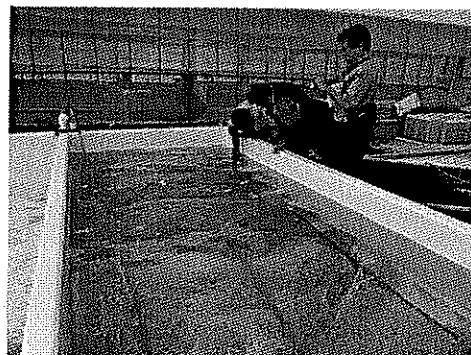
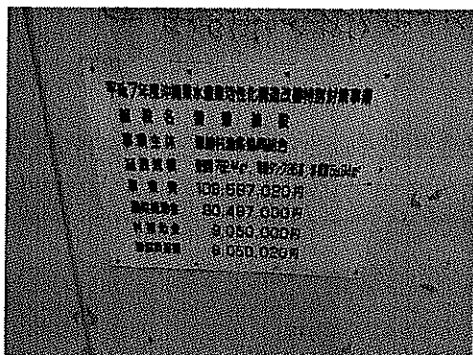
○海ぶどうの養殖について（国頭郡恩納村 塩谷漁港）

平成 26 年 10 月 29 日（火）沖縄県国頭郡恩納村の塩谷漁港で、海ぶどうの養殖施設を視察した。

恩納村は沖縄本島西海岸のほぼ中央部に位置し、南北 27.4km、東西に 4.2km と細長い地形をしていて山や川、海などの変化に富んだ自然豊かな村で風光明媚な岬やビーチが多く、海岸域はすべて沖縄海岸国定公園に指定されている。また、大型のリゾートホテルやペンション等の宿泊施設が充実していることにより年間宿泊者数 210 万人を数え、国内有数のリゾート地となっている。その環境の中、恩納村漁協は組織を民主的に運営し「誇りの持てる商品づくり」を目標に新鮮で良質な海産物が提供出来るよう日々、努力している。

海ぶどう（クビレヅタ）は、ブドウの房状をした食用海藻で沖縄独特の食材として需要も高く、2006 年の推定生産量は 214t で、生産額 6 億 6,000 万円を超える県の重要な水産業へと急激に成長した。現在流通している海ぶどうのほとんどは陸上養殖により生産されたものである。その養殖方法はまず、種苗となる母藻を網ではさみ池に沈め、マダイの固形飼料を肥料として与え増殖させる。約 30～40 日後に伸長したブドウ状の葉部をつみ取り、養生後、海ぶどうとして出荷している。

以前、浜田の海で海ぶどう（クビレヅタ）に似た海藻（フサイワヅタ）を発見し、養殖できないかと考えたことがあり、非常に興味がある施設に伺い、地元の漁師さんから話を聞いた。沖縄の海水温度は通年、大きな変動はなく、陸上養殖に適している。浜田では海水温度の変化が大きいため、陸上養殖に適していない。しかしながら、水温を一定にすることができれば、フサイワヅタの養殖も可能だと感じた。今後ともあきらめずに、浜田に適した養殖を探っていきたい。



○地域観光・渚の交番について（中頭郡北谷町 北谷町観光協会）

平成 26 年 10 月 30 日（水）沖縄県中頭郡北谷町の北谷町観光協会で地域観光・渚の交番について、周辺施設を回りながら、担当者から話を伺った。

北谷町は、北前及び美浜地域の整備に加えアメリカンビレッジの開発により、県内外から多くの観光客・入域客が訪れるようになった。また、現在フィッシャリーナ整備事業も進行中であり、今後ますます入域客の増加が見込まれる。今後、北谷町においては、これまでのハード面での整備に加えソフト面での充実化が求められている。そのためには、増加する入域客に対するサービスの向上を図り得る核となる組織が必要であり、観光協会が、その役割を担う重要な存在となっている。

賑わいのある町を創出するためのあらゆる振興策を実施している。個人のライフスタイルが多様化する中、そこには、物質のみならず心の豊かさを求める様々なニーズがあり、歴史や文化、環境問題、健康増進等にも気を配りながら、様々の事業に取り組んでいる。

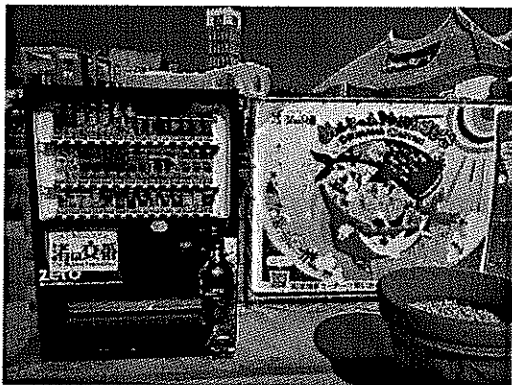
また、海の安全や周辺地域の安全を守り、住民らの交流の場とする「渚の交番」の運営を始めた。渚の交番を拠点に、町内を定期的に巡回するほか、地域の井戸端会議などへの利用、海辺のイベント、環境や動物の保護活動をする。

渚の交番は、ダイビングショップやライフセイバーと協力し、日本財団が運営資金を助成して設置を進めており、沖縄県内では初めての設置。助成後、3年間を経て自主財源での運営に移行する。日本財団が巡回用の車両を渚の交番に贈呈した。2013年度から正式な助成期間となった。

自主運営に向けた資金造成を支援するため、町内で不動産賃貸を営むサニーズプロジェクトは4月、同社が管理する物件の敷地に、沖縄コカ・コーラボトリングの自動販売機4台を設置した。

サニーズは飲料販売の利益を渚の交番に寄付し、沖縄コカ・コーラは自販機の電気料を負担している。

浜田でも瀬戸ヶ島地区での建設を目標に、日本財団と協議中。全国の渚の交番を連携し、よい施設となるように浜田市の協力が必要だと感じた。



○医療体制の充実について（うるま市 県立中部病院）

平成 26 年 10 月 30 日（水）沖縄県うるま市の県立中部病院で医院長から話を伺った。

中部病院では、救急患者をいつでも受け入れ、ベッド満床を理由に患者を断らないという理念が綿々と引き継がれている。

1975年に救命救急センターの指定を受けて以来2004年まで沖縄県内唯一の救命救急センターとして、現在も救急医療の中心的な役割を担っている。

また、沖縄県には有人離島が40有り、19島に診療所が開設されており、その診療所に勤務する医師を育成する役割も果たしている。診療所とインターネット経由での情報交換や、診療所医師の研修・休暇・弔慶休時の代診医派遣等の診療支援も行っている。

終戦後の沖縄の医療事情は劣悪であった。沖縄県は医師確保対策として日本国内の大学に"留学"させる特別な奨学制度を作成した。

しかし、当時の沖縄には卒後臨床教育のための施設や臨床研修プログラムがないことから、医師不足解消の成果をあげることはできなかった。

このような状況を打開するために、1967年にハワイ大学と提携した臨床研修プログラムがスタートした。臨床重視の研修プログラムは年月を経るにつれて、次第に全国から注目を浴びるようになり、1973年から後期研修を2年追加した。1983年から、後期研修終了者に1年の離島勤務が義務化され、以来修了生が離島医療の大きな戦力となっている。1996年には研修終了後離島で自立した診療のできる医師作りのために、プライマリケアコースを新設した。

指導医と研修医のモチベーションを高めるために米国での臨床研修を、それぞれ1980年と1996年に導入した。

2004年に新臨床研修制度が開始されたが、これを38年間積み上げてきた実績中、今後さらに磨くもの・反省して改善すべきものを見つけ出す好機ととらえ、病院内外の諸関連施設と連携を深めつつ改革・改善を心掛けている。

浜田医療センターでは、医師・看護師不足問題が深刻化している。簡単には問題解決にはならないと感じた。様々な問題が蓄積しているが、今後も浜田市が市民病院だと捉え、さらなる支援が必要だと感じた。

現地視察

○米軍機騒音状況について（嘉手納・普天間基地周辺等）

米軍機の騒音問題が深刻化しており、嘉手納・普天間基地周辺の状況について、現地視察を行った。沖縄県民は日常にこの爆音を聞いており、慣れているとのことだった。飛行訓練の内容が違うため、浜田市の爆音の方が大きいように感じた。

○戦跡・慰霊施設について（平和記念公園、糸数壕等）

平和を祈りつつ、平和記念公園、ひめゆりの塔、糸数壕の現地視察を行った。やはり、戦争の悲惨さを伝え、平和教育は必要だと強く感じた。